

新人戦の記事に誤りがありました。表面のみ再配付させていただきます。申し訳ございませんでした。

須賀川市立義務教育学校「**稲田学園**」学園だより

とう oun
稲雲 第10号訂正版

令和4年 9月30日発行

発行者：校長 小貴 崇明



○中体連岩瀬支部新人総合大会で大活躍！

中体連岩瀬支部新人総合大会は、9月27日（火）、28日（水）の2日間開催され、着実に練習を積み上げてきた稲田学園の選手たちの活躍が目立った大会になりました。結果は以下の通りです。上位大会や来年度の総合大会が楽しみです。入賞されたチームの皆さん、個人の皆さん、本当におめでとうございます。

◎野球

1回戦 対須一中 15-0 勝利
準決勝 対鏡石中 2-5 惜敗 3位

◎ソフトテニス

団体 予選リーグ2戦2勝 予選1位で決勝トーナメント進出
準決勝 対西袋中 0-2 惜敗
3位決定戦 対岩瀬中 0-2 惜敗 ベスト4（県中大会進出）
個人女子8年生ペア ベスト8（県中大会進出）
個人女子7年生ペア ベスト8（県中大会進出）

◎卓球

団体 予選リーグ4戦全勝
準決勝 対鏡石中 3-2 勝利
決勝 対須三中 3-2 勝利 優勝！
男子個人 シングルス8年生 ベスト8
ダブルス8年生 ベスト8

◎バドミントン

団体リーグ戦 3勝1敗 第2位（県中大会進出）
女子個人シングルス 8年生 優勝！（県中大会進出）
女子個人ダブルス 8年生 準優勝（県中大会進出）
女子個人ダブルス 7年生 ベスト6（県中大会進出）



○いわせ地区小学校陸上競技交流大会は10月6日開催



10月6日（木）に開催される「いわせ地区小学校陸上競技交流大会」に向け、出場する6年生が放課後の練習を積み重ねています。9月26日（月）には、鏡石町鳥見山陸上競技場で練習を行いました。6年生は、一人一人課題意識を持って本番と同じ会場での練習に真剣に取り組んでいました。本番での入賞、自己ベストを目指し、さらに磨きをかけていってほしいと思います。（写真はリレー、走り幅跳びの練習）

なお、今回の大会では出場選手の家族1名の観戦・応援が認められています。

○児童生徒会新役員9名が決まりました



9月21日(水)、児童生徒会の新役員を決める選挙(立会演説会と投票)を実施しました。5～9年生までの児童生徒を前に、立候補者とその責任者が、自分の考えや思いを訴えました。どの候補者も、学園をより良い学校にしようとする熱意が伝わる立派な演説でした。



その後の投票では、市役所選挙管理委員会よりお借りした本物の投票箱などを使い、信任投票と決選投票を行いました。その結果、9名の新しい役員が決定しました。新しい稲田学園のリーダーとして、1～9年生のいる義務教育学校を引っ張って行ってほしいと思います。

○地区合奏祭で金賞、こども音楽コンクールで優秀賞



9月15日(木)、須賀川市文化センターで開催された岩瀬地区小中学校音楽祭(第2部合奏)において、稲田学園は中学校の部で金賞を受賞いたしました。16人という少人数ですが心を一つにして繊細かつエネルギーに演奏し勝ち取った金賞です。会場に駆けつけてくださった保護者の皆様の心にも深く刻まれた素晴らしい演奏でした。

また、tbc こども音楽コンクール福島大会(録音審査)重奏の部において、3人の管打楽器アンサンブルが優秀賞を受賞し、10月10日(月・祝)に郡山市で行われる東北大会への出場が決まりました。福島県代表として最高の演奏を期待しています。

○県立高等学校説明会～9年生の真剣な眼差し～

7月の私立高校説明会に続いて、9月22日(木)と29日(木)の2回に分けて、9年生及び保護者を対象とした県立高校説明会を実施しました。生徒は真剣な眼差しで、メモをとりながら熱心に説明を聞いていました。今回の説明会を機に進路決定への意識が高まり、進路決定に向けた取り組みがさらに本格化していくと思います。頑張れ9年生!



★言葉と生きる(10) 「創史想愛」(そうしそうあい)

パソコンなどで「耳下腺炎」が「時価千円」に誤変換されるように、ここで紹介したい言葉「創史想愛」は「相思相愛」という言葉の誤変換ではありません。校内文化祭『秋華祭』の今年度のメインテーマです。サブテーマには「仲間と創る一生の記憶」と付け加えられています。このテーマの作者によると、「新たな歴史となるような秋華祭にしたいと思い、このテーマにしました。“創史”とは歴史を創る(つくる)こと、“想愛”は仲間への思いやりを大切にしてほしいと考えました。」とのこと。この4文字にこめられた願いが強く伝わってきます。

今年の秋華祭では、3年ぶりに前期課程の子どもたちが発表に参加するプログラムがあります。また、9年生は現在3年ぶりとなる本格的松明作りにも取り組んでいます。コロナ禍を理由にできなかったことがどんどんできるようになる中で、新たな稲田学園の歴史、新たな稲田学園の感動が、子どもたちによってまさに今、創られようとしています。